

平成20年度事業報告及び収支決算報告

I 行事報告

1. 理事会

第64回理事会 平成20年5月29日（財団法人土木研究センター本部）

議 事 第1号議案 平成19年度事業報告及び収支決算報告承認の件

第2号議案 運用財産から基本財産への繰り入れの承認の件

第3号議案 特定資産への繰り入れの承認の件

報告事項 その他 道路関係業務の執行のあり方改革本部最終報告書について

第65回理事会 平成21年3月27日（財団法人土木研究センター本部）

議 事 第1号議案 平成21年度事業計画及び収支予算承認の件

第2号議案 評議員選任の件（任期満了に伴う選任）

第3号議案 顧問委嘱の件（任期満了に伴う選任）

報告事項 評議員会結果報告

1 評議員会結果報告

2 平成20年度事業執行状況報告

その他

2. 常任理事会

平成20年4月より平成21年3月まで、毎月第3月曜日を定例会と定め、理事長以下常勤の理事が出席し、センターの運営及び当面の諸問題について打ち合わせを行った。

3. 評議員会

第38回評議員会 平成20年6月25日（財団法人土木研究センター本部）

議 事 第1号議案 理事選任の件（理事辞任に伴う後任理事の選任）

報告事項 平成19年度事業報告及び収支決算報告について

平成20年度事業計画及び収支予算について

その他

第39回評議員会 平成21年3月11日（財団法人土木研究センター本部）

議 事 第1号議案 理事及び監事選任の件（任期満了に伴う選任）

報告事項 平成20年度事業状況報告について

そ の 他

4. 参 与 会

平成20年7月30日、センターの会議室において開催し、センターの業務の執行状況を説明した後、参与各位より今後の事業活動について貴重なご意見を戴いた。

5. 名 誉 会 長 ・ 顧 問 会

平成20年9月24日、センターの会議室において開催し、センターの業務の執行状況を説明した後、名誉会長及び顧問各位よりセンターの運営について貴重なご意見を戴いた。

II 事 業 報 告

（一般会計）

1. 研究会講習会事業

- （1）平成20年12月9日に東京都港区の日本消防会館（ニッショーホール）において、独立行政法人土木研究所の主催で開催された「土木研究所講演会」に協賛者として協力した。
- （2）平成20年11月20日に国土技術政策総合研究所において、つくば舗装技術交流会（委員長 久保和幸 独立行政法人土木研究所道路技術研究グループ舗装チーム上席研究員）主催で開催された「平成20年度 つくば舗装技術交流会シンポジウム」に支援を行った。

(3) 当センターの賛助会員の方々を対象に本部会議室において、現場の技術者の方々が必要とする技術の紹介、また研究者が発信したい技術の紹介を行い、討論を行うとともに、情報交換を、次のとおり行った。

- 第1回 平成20年 4月24日 「コンクリートに係わる研究と最近の技術動向」
- 第2回 平成20年 6月 3日 「コンクリートに係わる研究と最近の技術動向」
- 第3回 平成20年 9月26日 「鋼橋防食工の現状と課題」
- 第4回 平成20年10月 1日 「コンクリート構造物の耐久性向上技術」
- 第5回 平成20年12月12日 「道路土工指針改訂ほか土工の最近の話題」
- 第6回 平成20年12月19日 「道路土工指針改訂ほか土工の最近の話題」

2. 国際技術協力事業

(1) 研究交流助成金

「土木工学国際研究交流助成金制度」に基づき、試験研究機関及び民間企業の研究者を対象に公募したところ、25名の応募があった。選考委員会（委員長 富永正照 財団法人土木研究センター顧問）において11名の交付者が選出され、助成金を支給した。

(2) 国際研究交流

1) 海外からの訪問者

平成21年2月10日(火)、財団法人韓国建設資材試験研究院品質経営部 Seok Ho Joong 氏、及び Kim Myung Hoon 氏が、日本の〈海外建設資材品質調査・証明事業〉を調査のため来訪され、意見交換がおこなわれた。

2) SCC2008 への参加

平成20年11月8日から16日までの9日間、アメリカ合衆国のイリノイ州シカゴで開催された国際会議「THE THIRD NORTH AMERICAN CONFERENCE ON THE DESIGN AND USE OF SELF-CONSOLIDATING CONCRETE (SCC2008)」(第3回自己充てんコンクリートの設計と使用に関する北米会議)への参加及び土木構造物の視察のため柴田辰正企画・審査部主任

研究員を派遣した。

本国際会議は、11月10日から12日までの3日間開催され、世界各国から約400名の参加があった。日本からは、当センターの評議員でもある長瀧重義先生（愛知工業大学教授、東京工業大学名誉教授）がチェアマンとしてとして参加されたのをはじめとして、大学、ゼネコン、混和剤メーカーなどから10名の参加があった。

一般発表が24セッション開催され、日本人による発表が4件あった。各セッションは、フレッシュコンクリートのレオロジーやワーカビリティに関するもの、化学混和剤、分離、配合、機械的性質、プレキャストコンクリート、鋼繊維コンクリート等、自己充填コンクリートが抱えているさまざまな問題がテーマとして挙げられていた。

本国際会議への参加により、新しいタイプのコンクリートである自己充填コンクリートが世界各国で活発に研究がなされおり、その情報を得るとともに、貴重な知見を得ることができた。

3) 31st International Conference on Coastal Engineering 発表

2008年8月30日から9月7日までの9日間、ドイツのハンブルクで開催された国際会議（ICCE 2008）での発表及びハンブルク周辺の海岸踏査を目的として、宇多高明理事と石川仁憲河川・海岸研究部主任研究員を派遣した。

ICCE 2008では、「宇多高明：MEASUREMENT AND PREDICTION OF DEFORMATION OF CONVEYER BELTSCARRYING GRAVEL AND FINE SAND OFF SHIMIZU COAST（清水海岸沖における細砂と礫の移動予測）」、「宇多高明：MODEL FOR PREDICTING SHORT-TERM VARIATION OF FORESHORE SLOPE AND SHORELINE APPLYING CONCEPT OF EQUILIBRIUM SLOPE（前浜勾配と汀線の短期変動の予測モデル）」、「石川仁憲：FIELD EXPERIMENT OF BEACH NOURISHMENT CONSIDERING CHANGE IN GRAIN SIZE AND PREDICTION OF BEACH CHANGES（粒径を考慮した養浜の現地実験と海浜変形予測）」など5件の論文を発表（同行者2名の発表を含む）した。世界各国から参加があったが、海岸侵食の分野において、数値計算や実態解析に粒径を考慮した実務レベルの研究発表は当センターのみであり、世界的レベルにおいて最先端の研究であるといえる。

(3) 海外の土木技術動向調査

1) 耐震設計国際会議 MERCEA'08 への参加および古代土木建造物調査

平成20年7月5日から平成20年7月13日までの9日間、イタリアのレッジョ・ディ・カラブリアにて開催された国際会議 MERCEA'08 (2008 Seismic Engineering International Conference commemorating the 1908 Messina and Reggio Calabria Earthquake)への出席及びチュニス・ローマの古代土木建造物を視察するため、安波博道材料・構造研究部長と森直人材料・構造研究部研究員を派遣した。

① MERCEA'08 への参加

本会議は、1908年にメッシーナ海峡（イタリア半島～シチリア島間）にて発生した地震及び津波により甚大な被害を受けてから100年の経過を記念し、地震工学や地盤工学の分野における最新の研究結果を討議する目的でレッジョ・ディ・カラブリア大学等が主催し、IGS(国際ジオシンセティックス学会)等の後援で開催されたものである。会議の主な議題としては、以下のものが挙げられる。

- i 1908年のメッシーナ海峡における地震の概要
- ii 液状化とその抑止策
- iii 斜面、堤防、ダム
- iv 地盤－構造物の相互作用
- v 地震に関する基準書やガイドライン
- vi 構造工学及び構造動力学
- vii 数値解析
- viii パッシブ型制振装置及び免震装置
- ix 構造物の補修・補強に関する最新技術
- x 地震によるリスクの評価
- xi 地震発生の確率論的アプローチ
- xii 構造安全性及び信頼性

Xiii 地震によるリスクを低減する都市計画と政策

会議は、招待講演、特別セッション、ポスターセッション、一般セッションから構成されている。参加人数は200人程度と小規模ではあったが、日本からの発表・講演も数件あった。

議題の中で、地中海地域に多数存在する古代・中世の遺跡の補修・補強に関する分野について、盛んに議論が交わされていたのが特に印象的であった。

② 古代土木建造物の視察

i ケルクアンの古代カルタゴの町

チュニジアの首都・チュニスの郊外(ボン岬半島)のケルクアンにある、古代カルタゴの町を視察した。

本遺跡は、紀元前6世紀前後に、古代フェニキア人によって建設された人口2000人程度の住居跡である。地中海に面しており、貝による染め物を行う職人の町であった。紀元前2世紀に古代ローマがカルタゴを滅ぼした後、この場所には町を再建しなかったため、フェニキア人の住居跡がそのまま残っているという珍しい遺跡であり、1985年に世界遺産に登録された。

市街地は整然と区画整理されている。また、原始的な下水道が整備されており、生活排水は海に直接排出されていた。一般的な生活排水に加えて各家庭で発生した染め汁の廃液を廃棄する必要性があり、また近くに海という格好の排水先があるために、このような下水道が発達したものと考えられるが、今から2600年前に、既にこのような土木施設が建造されていたと考えると非常に感慨深い。

ii ローマ・アッピア旧街道

イタリアのローマ郊外にある、アッピア旧街道を視察した。本街道は、紀元前2世紀の共和制ローマの時代に、軍隊の高速移動を可能とすることを意図して敷設されたものであり、敷設当時の石畳の一部が公園として保存されている貴重な遺跡である。公園内は自転車等で通行することが可能で、街道沿いには水道橋等の遺跡が並んでいる。

石畳の街道は、現在の自動車や自転車では通行が困難な程凹凸が激しかったが、都市近辺以外が森に覆われていた当時からすれば、高速道路と呼ぶにふさわしい画期的なものであったであろう。馬車によるものと考えられる轍が散見され、当時の通行状況が想像される。

数千年前の土木施設がこうして現存している点から、当時の指導者や土木技術者の意気込みを感じずにはいられない。

3. 研究開発事業

(1) 国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人土木研究所との共同研究として、次の課題を行った。

- 1) 海洋構造物の耐久性向上技術に関する研究

(独立行政法人土木研究所・(社)日本鉄鋼連盟・(社)PC建設業協会)

(2) 開発研究として、次の研究業務を行った。

- | | |
|--|------------------|
| 1) つくば舗装技術交流会 (T P T) | 民間 15 社 |
| 2) 道路橋の免震構造に関する研究 | 民間 16 社 |
| 3) 全素線塗装型 P C 鋼より線の合理的な適用に関する研究 | 民間 3 社 |
| 4) 非接触型流速計測法のフォローアップ | 民間 5 社 |
| 5) 護岸ブロック水理特性値試験のフォローアップ | 民間 5 社 |
| 6) 平成 20 年度 鉄鋼スラグを用いた養浜検討 | 鉄鋼スラグ協会 |
| 7) 舗装技術を深く考える会 | 土研・(財)3 社・民間 8 社 |
| 8) 路面・道路付属施設の維持管理に関する検討 | 自主研究 |
| 9) 地域環境コンソーシアム | 富山県・大分県 |
| 10) 地盤汚染の対策に関する技術検討委員会 | 民間 25 社 |
| 11) G R S (Geosynthetic-Reinforced Soil)により補強した抗土圧構造物の研究開発 | 2 大学 |
| 12) 地盤委員会 | 7 大学 |

- | | |
|----------------------------------|-----------|
| 13) 薄型地覆への橋梁用車両防護柵用アンカー施工法に関する研究 | 高欄協会他 1 社 |
| 14) 実験施設の維持管理における性能保証に関する研究 | 自主研究 |
| 15) 耐候性鋼橋梁の適用評価技術に関する調査研究 (その 4) | 長崎県、石川県 |
| 16) 鋼橋の局部補修塗装に関する研究開発 | 日鉄防蝕 (株) |

(特別会計)

4. 出版事業

次の雑誌、図書を刊行した。

- (1) 月刊誌「土木技術資料」の発行

単価	1,050 円	月 3,000 部
----	---------	-----------

- (2) 現場発泡ウレタン超軽量盛土工法設計・施工マニュアルの発行

単価	2,500 円	1,000 部
----	---------	---------

- (3) 「ジオファイバー工法」設計・施工マニュアルの発行

単価	2,500 円	2,500 部
----	---------	---------

- (4) 補強土 (テールアルメ) 壁工法設計・施工マニュアル第 3 回改訂の増刷

単価	4,200 円	500 部
----	---------	-------

- (5) ジオテキスタイルを用いた補強土の設計・施工マニュアル改訂版の増刷

単価	5,250 円	1,000 部
----	---------	---------

- (6) 多数アンカー式補強土壁工法設計・施工マニュアル第 3 版の増刷

単価	3,675 円	600 部
----	---------	-------

- (7) 国土技術政策総合研究所及び独立行政法人土木研究所のコピーサービス

国土技術政策総合研究所資料、土木研究所資料ほか

約 83,000 枚

5. 受託研究事業

国土交通省国土技術政策総合研究所、独立行政法人土木研究所及び地方整備局、地方公共団

体、民間企業等からの依頼により、受託研究として、次の課題の業務を実施した。

(1) 土木材料に関する研究、調査、試験

- 1) 防汚材料評価試験 日鐵住金建材(株)他 10 社
- 2) 土木用防汚材料普及委員会業務 日本ペイント販売(株)他 6 社
- 3) 鋼橋防食工の補修方法に関する共同研究委員会業務 関西ペイント販売(株)他 5 社
- 4) 鋼構造物塗装の VOC 削減に関する共同研究委員会業務 大日本塗料(株)他 5 社
- 5) 「浸透性コンクリート保護材研究会」業務 アトミクス(株)他 7 社
- 6) 平成 20 年度「TRIGRID®EX」土中引抜き試験 Samyang Corporation
- 7) フレッシュコート HII 認証試験 ニチレイ(株)
- 8) エポキシ樹脂全塗装 PC 鋼より線（全素線塗装型）の偏向部における性状試験
..... KTB 協会
- 9) O 式試験機による摩耗試験 太平洋セメント(株)他 2 社
- 10) 河川ダム施設の暴露試験調査業務 (株)リバイブ
- 11) 鉄筋の機械式定着の性能評価試験 朝日工業(株)
- 12) H20 年度 防水層の品質基準試験 ニチレイ(株)他 6 社

(2) 橋梁に関する研究、調査、試験

- 1) 複合材料等の新材料の橋梁への有効活用に関する検討業務
..... 国総研 道路構造物管理研究室
- 2) 碓氷管内耐震設計業務 関東地整 高崎河川国道事務所
- 3) 上八橋 橋梁補修技術調査検討業務委託 福岡県 宗像土木事務所
- 4) 一般県道日ノ島猿浦線外 1 線橋梁補修工事（現場指導委託）
..... 長崎県 五島地方局上五島土木事務所
- 5) 神取橋橋梁補修調査検討業務委託 宮城県 東部土木事務所
- 6) 腐食モニタリング調査 松尾橋梁(株)・松尾エンジニアリング(株)特定建設工事共同企業体
- 7) 清湖大橋 塗替え塗装工事における品質管理 (株)酒井塗装店

8) 橋梁補修塗装に関する技術監理業務 (有)大徳塗装

(3) 道路に関する研究、調査、試験

1) 平成 20 年度舗装の促進載荷試験業務 土研 舗装チーム

2) 平成 20 年度騒音測定補助業務 土研 舗装チーム

3) 冬季騒音測定補助業務 土研 舗装チーム

4) ワイヤロープ式防護柵性能確認試験業務 寒地土研 寒地交通チーム

5) 高速道路トンネル入口照明実験 星和電機(株)

6) 中央環状新宿線高架橋防護柵の実車衝突試験 首都高速道路(株)

7) 平成 20 年度 路面性状自動測定装置性能確認試験 アールテックコンサルタント(株)他 11 社

8) 平成 20 年度 高粘度樹脂系接着剤を用いた透水性舗装の路面調査業務
..... (株)景観システム

9) 空港土木施設点検調査作業 (平成 20) エアポートメンテナンスサービス(株)

10) TMS がートパイク種別 A 種の上部インナースリーブ強度試験 神鋼建材工業(株)

(4) 地盤・施工に関する研究、調査、試験

1) 福岡 208 号 有明海沿岸道路施工技術支援業務 九州地整 福岡国道事務所

2) 大川佐賀道路軟弱地盤対策技術基準策定支援業務 九州地整 佐賀国道事務所

3) 国道 175 号橋りょう新設改良業務委託 京都府 中丹東土木事務所

4) 一般国道 384 号道路改良工事 (三日ノ浦橋下部工軟弱地盤対策技術支援業務委託)
..... 長崎県 五島地方局上五島土木事務所

5) 「タス工法」技術検討業務 補強土工法・タス協会

6) 地盤環境のリスクに関する調査業務 大成基礎設計(株)

7) 平成 20 年度多数アンカー式補強土壁工法設計・施工マニュアル改訂委員会
..... 多数アンカー式補強土壁協会

8) 「補強土(テールアルメ)壁工法設計・施工マニュアル」改訂委員会 日本テールアルメ協会

9) 法面保護用連続繊維補強土「ジオファイバー工法」設計・施工マニュアル複製 日特建設(株)

(5) 河川・海岸に関する研究、調査、試験

- 1) 新型消波施設の機能評価に関する検討業務 …………… 国総研 海岸研究室
- 2) 急勾配海底谷を持つ砂浜の安定性の照査等に関する業務
…………… 国総研 海岸研究室
- 3) 天竜川河口テラスにおける海浜変形予測業務 …………… 中部地整 浜松河川国道事務所
- 4) 相模沿岸漂砂解析等検討業務 …………… 関東地整 京浜河川事務所
- 5) 相模沿岸漂砂制御手法解析業務 …………… 関東地整 京浜河川事務所
- 6) 平成 20 年度沖洲地区等湖浜変形検討業務 …………… 関東地整 霞ヶ浦河川事務所
- 7) 鉄線籠型護岸の性能規定に関する検討業務 …………… 近畿地整 河川部
- 8) 皆生海岸クリスタ型人工リーフ検証業務 …………… 中国地整 日野川河川事務所
- 9) 重要課題解決型研究等の推進 先端技術を用いた動的土砂管理と沿岸防災
…………… 文部科学省 科学技術・学術政策局
- 10) 銚田海岸保全計画検討業務委託 …………… 茨城県 銚田土木事務所
- 11) 鹿嶋海岸保全計画検討業務 …………… 茨城県 潮来土木事務所
- 12) 粗粒材養浜事業追跡調査業務 …………… 茨城県 潮来土木事務所
- 13) 南九十九里浜養浜計画策定に関する検討業務 …………… 千葉県 長生地域整備センター
- 14) ハットラント[®]性能評価 …………… 千葉県 長生地域整備センター
- 15) 養浜計画検討業務 …………… 千葉県 長生地域整備センター
- 16) 平成 20 年度 海岸高潮対策工事県単 (その 9) …………… 神奈川県 藤沢土木事務所
- 17) 海岸高潮対策 相模湾沿岸漂砂地域別詳細調査業務 …………… 神奈川県 小田原土木事務所
- 18) 清水西海岸高潮対策工事に伴うサントリサイクル影響評価業務委託 …………… 静岡県 静岡土木事務所
- 19) 平成 20 年度清水海岸海岸調査漂砂シミュレーション業務委託 …………… 静岡県 静岡土木事務所
- 20) 平成 19 年度竜洋海岸外 遠州灘沿岸広域漂砂検討業務委託 …………… 静岡県 袋井土木事務所
- 21) 平成 20 年度億首川下流域土砂動態検討業務 …………… 沖縄総合事務局 北部ダム事務所
- 22) 流速計精度測定業務 (単価契約@21,000) …………… 土研 水文チーム
- 23) 流速計検定施設修理及び速度検査業務 …………… 土研 水文チーム

- 24) グレナダ国「コーブ伝統的漁業地域基盤改善計画」防波堤築造等に係る
 技術的検討（堆砂・浸食について）……………（独）国際協力機構
- 25) 護岸ブロック……………昭和コンクリート工業(株)他7社
- 26) バリ島海岸保全プロジェクト（Kutaビーチ）……………日本工営(株)
- 27) ベトナム国ハサック河航路付替事業詳細設計業務……………日本工営(株)
- 28) 鉄線籠型護岸蓋網部の線材に関する面的摩擦試験……………筑豊金網工業(株)他1社
- 29) 安倍川河口部における安全な砂利採取法の検討……………安倍川骨材事業協同組合

（6）耐震・耐風に関する研究、調査、試験

- 1) 耐風設計に関するPPT作成及び資料収集……………（社）日本橋梁建設協会
- 2) 複合ラーメン橋の振動実験に関する委員会運営業務……………（社）日本橋梁建設協会

（7）その他に関する研究、調査、試験等

- 1) 赤江浜環境保全に関する指導……………弁護士法人名古屋E&J法律事務所
- 2) 土木研究所の「危険物調査」……………土研 業務課
- 3) 建築基準法に基づく危険物調書作成業務……………土研 業務課
- 4) 構内敷地求積図修正……………土研 業務課
- 5) 構内緑地維持管理資料作成……………土研 業務課
- 6) 土木研究所新技術活用評価委員会の資料整理業務……………土研 技術推進本部
- 7) ASCE 投稿用論文英訳等……………（社）日本橋梁建設協会
- 8) 深槽反応タンク散気性能調査試験……………住友重機械エンバロメント(株)
- 9) 熱赤外線映像法によるのり面診断研究会事務局……………民間6社
- 10) ジオテキスタイル補強土工法普及委員会事務局……………民間25社
- 11) ハイグレードソイル研究コンソーシアム事務局……………民間44社
- 12) システム開発事務局……………民間4社

6. 審査証明事業

民間において研究・開発された新技術に建設事業への適切かつ円滑な導入を図りもって新

技術の普及と建設技術水準の向上に貢献することを目的として、当センターでは土木材料技術に係わる審査証明事業を実施している。平成20年度においては次の課題について技術審査を行い、審査証明書を交付した。

(1) 建設技術審査証明

- 1) 溶融亜鉛-10%アルミニウム合金めっき鉄線を用いた先めっき溶接金網「ハイパープレッシュ」
..... 日亜鋼業(株)他4社
- 2) 薄膜溶融亜鉛めっき鋼管「パーフェクトポストジंक鋼管」 大和鋼管工業(株)
- 3) 土留め構造物用プレストレストコンクリート壁材「H型PC杭」 (株)ピーエス三菱
- 4) 盛土・地盤補強用ジオグリッド「アテム® HGタイプ」 前田工織(株)
- 5) 高強度繊維補強モルタルを使用した低桁高PC桁「ダックスベーム」 (株)ピーエス三菱
- 6) 高輝度蓄光式屋外用案内標示板「アルコール・サインプレート」 (株)アベイラス
- 7) 浄水汚泥を原料とする粒状改良土「セフティクレイ」 (株)GEC他2社
- 8) 盛土・地盤補強用ジオグリッド「TRIGRID®EX」 Samyang Corporation
- 9) 斜面スリット型透過式ケトン「S-VHS工法」 五洋建設(株)
- 10) 超小型ゴム支承装置「UCB」 (株)ビートーエム
- 11) 先端翼つき回転貫入鋼管杭「ジオキング・パイルⅡ」 住友金属工業(株)

【建設技術審査証明事業で証明された技術の内容変更を行ったもの】

- 1) RCプレキャスト部材組立式雨水貯留施設「M.V.P.システム」 (株)ホクコン
- 2) 袋型根固め工法用袋材「GBユニット GBYエコタイプ ER型, EH型, BR型」 (株)田中
- 3) 盛土・地盤補強用ジオグリッド「セルフオース®Fタイプ」 タキロン(株)
- 4) 盛土・地盤補強用ジオグリッド「テナックスTT」 (株)ジオシステム

【建設技術審査証明事業で証明された技術を更新したもの】

- 1) 袋型根固め工用袋材「キョーワ式フィルターユニットⅠ型・Ⅱ型」 キョーワ(株)
- 2) 土の締固め施工管理システム「アマックス」 (株)浅沼組・(株)マルイ

- 3) 地山補強土工法「スーパーダグシステム」 ヒトエ(株)
- 4) 性能向上のために分割練混ぜをしたコンクリート「SEC コンクリート」 石川島建材工業(株)他 1 社
- 5) 耐摩耗性樹脂コンクリート舗装補修材「マーベールック」 日油(株)他 2 社
- 6) 騒音低減効果の高い遮音壁頂部消音装置「ハイシャット HSF・HST」 (株)栗本鐵工所
- 7) 特定の木本植物の発芽・初期の生育に適した簡易吹付法柵緑化基盤「ソイルクリート」
..... 日本植生(株)
- 8) 道路橋 RC 床版取換用高強度軽量プレキャスト PC 床板「HSL スラブ」 ビーシー橋梁(株)
- 9) 石炭灰を利用した人工地盤材料「コアソイル Q」 九州電力(株)
- 10) 小径コアによるコンクリート構造物の調査技術「ソフトコアリング C⁺」 (株)銭高組他 2 社
- 11) ポリエチレンストラット引張型永久アンカー「OPS アンカー」 岡部(株)他 3 社
- 12) 全素線二重防錆 PC 鋼より線「Ducst」 黒沢建設(株)
- 13) 鋼管杭・鋼管矢板用鋼管本体の機械式継手「カシン」 JFE スチール(株)
- 14) 可撓性を有するもたれ式擁壁「箱型擁壁」 (株)箱型擁壁研究所他 1 社
- 15) 側溝蓋用 GRC 製型柵「KC フォーム」 インフラテック(株)
- 16) 高耐力継手を用いた鋼管矢板基礎、高耐力継手を用いた鋼管矢板・場所打ち杭複合
基礎「ハイパーウェル SP」 清水建設(株)他 2 社

(2) 海外建設資材品質審査・証明事業

- 1) スチールファイバー「BUNDREX (バンドレックス)」 (株)鈴木エンタープライズ

【建設技術審査証明事業で証明された技術を更新したもの】

- 1) スチールファイバー「SS ファイバー」 シーエムシー(有)
- 2) ハイセラミック管「スーパースリーブ」 ハイセラミック管協会

7. 環境保全事業

国土交通省国土技術政策総合研究所及び独立行政法人土木研究所の依頼により、研究環境の保全及び改善に関する業務を実施した。

(1) 国土交通省国土技術政策総合研究所

- 1) 研究施設点検整備業務
 - 2) 研究設備等工事・管理補助業務
 - 3) クレーン設備点検業務
 - 4) 高流速実験水路テント倉庫膜交換
 - 5) エアレーション施設発信器、温度計キャリブレーション作業業務
- (2) 独立行政法人土木研究所
- 1) 土木研究所（つくば中央）実験設備保守点検業務
 - 2) 土木研究所（つくば中央）クレーン設備保守点検業務
 - 3) 南ストックヤードディスプレイ用 H 型鋼切断加工、塗装業務
 - 4) 載荷板製作及び取付け業務